

レアンドロ・エルリッヒ展：見ることのリアル

2017年11月18日(土)ー2018年4月1日(日) 森美術館(六本木ヒルズ森タワー53階)

レアンドロ・エルリッヒ、過去最大の個展！

森美術館は、2017年11月18日(土)から2018年4月1日(日)まで、「レアンドロ・エルリッヒ展：見ることのリアル」を開催します。レアンドロ・エルリッヒは、国際的に活躍するアルゼンチン出身の現代アーティストで、日本では金沢21世紀美術館に恒久設置された《スイミング・プール》の作家としても知られています。

大型のインスタレーションから映像まで、エルリッヒの作品は視覚的な錯覚や音の効果を用いて、わたしたちの常識に揺さぶりをかけます。一見どこにでもある見慣れた風景ですが、よく見ると、水がないのに舟が浮かんでいたり、人々がさまざまなポーズで壁に張り付いていたり、その異様な光景に観客は驚きと違和感を覚えることでしょう。自分が見ていることは果たして現実なのか、という疑いを抱くとともに、いかに無意識のうちに習慣にとらわれて物事を見ているか、という事実気付くのです。

本展は、エルリッヒの24年にわたる活動の全容を紹介する、世界でも過去最大規模の個展です。1995年から2017年までに制作された作品のうち約40点を紹介し、その8割が日本初公開となります。作品を通してわ

たしたちは、見るという行為の曖昧さを自覚し、惰性や習慣、既成概念や常識などを取り払い、曇りのない目で物事を「見る」ことで、新しい世界が立ち現われてくることを、身をもって体験することになるでしょう。

レアンドロ・エルリッヒからのメッセージ

今回の個展は、私のキャリアにとって最大の挑戦であり、また、常にさまざまなインスピレーションを与えてくれる、洗練と刺激に満ちたこの東京で開催できることを大変光栄に思います。

私の作品を通して、みなさん一人一人が「日常においてわたしたちがいかに無意識のうちに惰性や習慣で行動しているか」、そして「いかに常識や既成概念にとらわれ凝り固まった見方をしているか」ということに気付き、現実を問い直すきっかけとなれば嬉しいです。現実の一つだけではない。それこそが現実なのではないでしょうか。

《建物》2004年
リノリウムにデジタルプリント、照明、鉄、木材、鏡
800 x 600 x 1,200 cm
展示風景：ニュー・ブランシュ、パリ、2004年
※参考図版



プレスリリース

お問い合わせ 「レアンドロ・エルリッヒ展：見ることのリアル」広報事務局(共同ピーアール内) 担当：津原、花上、永福、村田
Tel: 03-3571-5258 Fax: 03-3574-0316 E-mail: leandro-pr@kyodo-pr.co.jp
〒104-8158 東京都中央区銀座 7-2-22 同和ビル

展覧会のみどころ

1. 多くが日本初公開！初期の作品から新作までを網羅的に紹介

本展は、1995年に制作された初期の作品から新作までを網羅的に紹介することで、エルリッヒの24年にわたる活動の全容に迫る世界でも過去最大規模の個展です。出展作品約40点のうち、その8割が日本初公開作品で構成されるため、今まで見たことのない、エルリッヒ作品の新たな魅力に出会うことができます。

2. 「現代アートっていいね!」を実感、誰もが楽しめる展覧会

不思議と驚きに溢れ、好奇心を刺激するエルリッヒの作品は、観客自らが参加し体験することで初めて完成されます。さらに建物や教室、地下鉄、エレベーターなど日常の中のありふれたものが作品のモチーフとなっているため親しみやすく、現代アートに馴染みがなくても、大人から子どもまで誰もが気軽に楽しむことができます。

3. 写真撮影が可能！

“インスタ映え”する大規模で建築的なインスタレーション作品

エルリッヒの作品の中でも特に人気がある「建物」シリーズが、本展にも登場します。これは、観客が床に置かれた建物のファサード(壁面)に寝転がって思い思いのポーズをとると、鏡の効果で、まるで重力に逆立ったようなアクロバティックな体勢で、壁や窓枠にしがみついているかのような光景が生まれる、大規模な体験型インスタレーション作品です。作品の一部になった自分自身の不思議な姿を、写真に撮って楽しむこともできます。

4. 世界が違って見えてくる！新たな見方を与えてくれる作品群

見慣れた風景に僅かでも認識の“ずれ”が生じると、人は突如として違和感を覚えます。エルリッヒの作品は、私たちが当たり前のこととして疑いもせず受け止めている現実の中に、不思議で奇妙な空間を提示することで、私たちに「現実」とは何かを再考する機会を与えます。展覧会を通して、習慣や既成概念がいかに私たちの認識に影響を与えているかに気付くことで、鑑賞後の世界も今までとは違って見えることでしょう。

5. 作品の背後に込められた、社会的メッセージと批評性

老若男女、誰もが楽しめるエルリッヒの作品ですが、その背景には社会的メッセージが込められています。《シンボルの民主化》は、ブエノスアイレスの街の中心にそびえるオペリスクをテーマにしていますが、権力の象徴である建造物を一般市民に開放したプロジェクトとして話題になりました。また、本展のための新作《教室》は、廃墟化した教室に自分の姿が亡霊のように映り込む作品で、日本が抱える少子化や過疎化などの問題を示唆し、観客にその未来像を考えさせます。

《シンボルの民主化》
2015年
写真
各145 x 100 cm



プレスリリース

お問い合わせ 「レアンドロ・エルリッヒ展：見ることのリアル」広報事務局(共同ピーアール内) 担当：津原、花上、永福、村田
Tel: 03-3571-5258 Fax: 03-3574-0316 E-mail: leandro-pr@kyodo-pr.co.jp
〒104-8158 東京都中央区銀座 7-2-22 同和ビル

主な展示作品

《反射する港》 日本初公開

手漕ぎ式のボートが、水に揺れながら漂う様子を見て、展示室の中に、船着き場が現れたのかと思うでしょう。しかし実際にそこに水はなく、水面に映っているように見える反射イメージも、上部のボートと同じ素材でできた立体物なのです。



《反射する港》 2014年
繊維ガラス、金属フレーム、駆動装置、木材、アクリル板 サイズ可変
展示風景：「ハンジン・ SHIPPING・ザ・ボックス・プロジェクト2014」韓国国立現代美術館、ソウル、2014年
Courtesy: National Museum of Modern and Contemporary Art, Korea; Art Front Gallery; Galleria Continua

《教室》 新作

本展のために制作される新作。少子化や地方の過疎化を背景に、廃校となった学校の教室が舞台の作品です。ガラスで仕切られた2つの部屋の一方に入ると、ガラスに自身の姿がうつすらと映り込み、まるで亡霊となった自分が、もう一方の廃墟と化した教室にいるかのように見えます。



《精神分析医の診察室》 2005年
ソファ、本棚、机、椅子、カーペット、ガラス、照明のある同じサイズの2部屋
サイズ可変
展示風景：プロア財団、ブエノスアイレス、2013年
撮影：Clara Cullen
※参考図版

《建物》 新バージョン

「重力に逆らって、軽々と壁にぶら下がってみたい。」そんな願いを叶えてくれる、参加型のインスタレーションです。床に横たわった建物のファサード(壁面)に寝転がると、その姿が鏡に映し出されます。



《建物》 2004年
リノリウムにデジタルプリント、照明、鉄、木材、鏡
800 x 600 x 1,200 cm
展示風景：104-パリ、2011年
※参考図版

《試着室》 日本初公開

まるで迷路のような体験型のインスタレーションです。試着室の中に入ると、前方と左右に姿見が。しかし自分の姿は映っておらず、代わりにどこまでも試着室が続いています。試着室を彷徨う中で、自分が鏡の外と内のどちらにいるのか、自己と他者の区別さえも曖昧になっていきます。



《試着室》 2008年
パネル、フレーム、鏡、スツール、カーテン、照明
サイズ可変
展示風景：イグアテミ・ショッピングモール、サンパウロ、2016年
撮影：Luciana Prezia
Courtesy: Iguatemi Shopping Mall

プレスリリース

お問い合わせ 「レアンドロ・エルリッヒ展：見ることのリアル」広報事務局(共同ピーアール内) 担当：津原、花上、永福、村田
Tel: 03-3571-5258 Fax: 03-3574-0316 E-mail: leandro-pr@kyodo-pr.co.jp
〒104-8158 東京都中央区銀座 7-2-22 同和ビル

レアンドロ・エルリッヒ

1973年、アルゼンチン、ブエノスアイレス生まれ。現在はブエノスアイレスとウルグアイ、モンテビデオを拠点に活動。ホイットニー・ビエンナーレ2000(ニューヨーク、2000年)をはじめ、第26回サンパウロ・ビエンナーレ(ブラジル、2004年)、リバプール・ビエンナーレ2008(イギリス、2008年)といった多くの国際展に参加、また、ポンピドゥー・センターで開催された「パリ・デリー・ボンベイ展」(フランス、2011年)にも出展。主な個展に、ローマ現代美術館(イタリア、2006年)、MoMA PSI(ニューヨーク、2008年)、エスパシオ・フンダシオン・テレフォニカ(マドリード、2017年)、ニューバーガー美術館(ニューヨーク、2017年)など。国内では、大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ(新潟、2006年、2012年)、瀬戸内国際芸術祭2010(香川、2010年)などに参加し、2014年には金沢21世紀美術館にて日本初の個展を開催。



撮影: Alejandro Guyot



《スイミング・プール》

レアンドロ・エルリッヒは、日本では金沢21世紀美術館に恒久設置された《スイミング・プール》の作家としても知られています。

地上と地下を隔てる水面を通して、地上からは水中で動き回る人々が眺められ、地下からは水中から地上を仰ぎ見るような体験ができる面白さから、老若男女問わず親しまれています。

※本展では、《スイミング・プール》のプロトタイプ模型と写真を展示します。

《スイミング・プール》 2004年 コンクリート、ガラス、水 280 x 402 x 697 cm
 所蔵: 金沢21世紀美術館
 撮影: 木奥恵三
 画像提供: 金沢21世紀美術館
 ※参考図版

開催概要

展覧会名:レアンドロ・エルリッヒ展: 見ることのリアル

主催: 森美術館

後援: アルゼンチン共和国大使館

企画: 椿 玲子(森美術館アソシエイト・キュレーター)

会期: 2017年11月18日(土)ー2018年4月1日(日)

会場: 森美術館(東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー53階)

開館時間: 10:00-22:00 | 火 10:00-17:00 *いずれも入館は閉館時間の30分前まで *会期中無休

入館料: 一般1,800円、学生(高校・大学生)1,200円、子供(4歳ー中学生)600円、シニア(65歳以上)1,500円

*表示料金の消費税込 *本展のチケットで展望台 東京シティビューにも入館可(スカイデッキを除く)

*スカイデッキへは別途料金がかかります

一般のお問い合わせ: Tel: 03-5777-8600(ハローダイヤル)

最新のプレス画像は、森美術館ウェブサイトのプレス画像ストックより申請、ダウンロードいただけます。

<https://mam-media.com/jp/press-img>

プレスリリース お問い合わせ 「レアンドロ・エルリッヒ展: 見ることのリアル」広報事務局(共同ピーアール内) 担当: 津原、花上、永福、村田
 Tel: 03-3571-5258 Fax: 03-3574-0316 E-mail: leandro-pr@kyodo-pr.co.jp
 〒104-8158 東京都中央区銀座 7-2-22 同和ビル